

南の風 546

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の、「できるだけオフェンスの組み立てに時間をかけさせる」ことの続きです。

ドリブルとパスを横方向に仕向けて時間をかけさせることができれば、優位にディフェンスを展開することができます。このことを実現するには5人の協力が必要です。1人でも休む選手がいると、他の選手の努力が無駄になってしまうことになります。チームの意識付けが欠かせません。

🌸局面における有利不利

「攻撃から守備への局面」においてディフェンスが有利なのは、5人全員がディフェンスに戻って、それぞれのマッチアップができている状態のことです。一般的には「対等（イーブン）ですが、オフェンスが有利になりやすいこの局面では「有利」と言っても良いでしょう。相手ボールマンのスピードの脅威も小さいと考えられますし、戦術的なポイントとして、ディフェンスがオーバーナンバー（オフェンスよりも数が多い）のときは、プレッシャーをかける機会を損失しないことも大切です。

不利とは、5人全員がディフェンスに戻っておらず、マッチアップができない状態のことです。スペースも広くなる分、ボールマンが勢いよくアタックできるときでもあります。戦術的なポイントとしては、ディフェンスがアウトナンバー（オフェンスの数よりも少ない）であるときはもちろんのこと、イーブンナンバー（4対4や3対3のようなオフェンスとディフェンスが同数）でも、スペースを広く使われそうなどときには安心せず、相手の走り込んでくるスピードとエネルギーに対して備えることが必要です。

我々コーチが選手を評価するポイントの一つとして、この「有利か、不利か」を掴めるようになることが挙げられます。例えば、突出したオフェンス能力を持つ1人の選手が勢いよく攻めてきたときに、ディフェンスが不利だと判断したら、複数人で両手を広げてドライブさせないように守るビルドザウォール（壁を作る）を選択します。有利か不利かを見極め、機能的にディフェンスの態勢を選択・実行できれば、そのチームのディフェンスのパフォーマンスは高いと評価できます。

(3) 守備の局面（ハーフコートディフェンス）

守備の局面とは、相手チームがボールを保持している状況のことです。この局面での目的は「失点を防ぐ」ことです。また、ディフェンス側も「アタックする＝攻撃的に守る」という目標と、「ヘルプする＝危ない場면을チームで協力して守る」という目標を持つことによって、状況に応じて相手の攻撃を自由にさせず、制限をかけることを目指していきます。

原則①ゴールを守る（守るべき優先順位をつける）

▶失点を防ぐ

守備においても優先順位を設定して、目的を達成するために、その力をより発揮できるところから手厚く守る必要があります。つまり、失点する可能性が高いと判断した場合は「ゴールを守る」という目的が、自分のマークマンを守ることもより優先されます。（特にU12では、失点を防ぐためにゴールを守ることを徹底することが大事）そうすることで、相手により期待値の低いシュートを打たせることができるように仕向けます

次号にします